

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774002857		
法人名	株式会社 ビケンテクノ		
事業所名	メルシー緑が丘グループホーム		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	大阪府豊中市少路1丁目8番22号		
自己評価作成日	2022年10月11日	評価結果市町村受理日	2022年12月20日

【事業所基本情報】(介護サービスの情報公表制度の基本情報リンク先URLを記入)

https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&lievosvcCd=2774002857-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護保険市民オンブズマン機構大阪		
所在地	大阪府大阪市北区天神橋3丁目9-27 (PLP会館3階)		
訪問調査日	2022年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

私達のグループホームは、公園やお店、駅、病院が近くにあり、立地条件に恵まれ、入居者が楽しく安心した暮らしが出来るよう運営を行っています。また、入浴におけるケアを考えて、週に3日お風呂に入って頂いています。目的は①皮膚を清潔に感染予防②心身機能を高め、心身をリラックス③健康状態の把握です。グループホームでは、医療スタッフの配置基準は義務付けられていませんが、看護師が常駐していますので、日常生活から些細な変化をキャッチして、迅速に対応する事が出来ます。また、主治医への説明と連携もスムーズに対応しております。それから、入居者の残存機能第一に考え、介護計画を立案し、スタッフ全員が統一したケアが出来るように支援しております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

介護付き有料老人ホームや在宅クリニック・保育園等の事業展開をしている株式会社が運営するグループホームです。ホームは駅から徒歩1分で、公園や病院、スーパーが隣接し、四季の移ろいを感じることができる環境にあります。ホームは建物の3・4階が生活住居で、1・2階では保育園を運営し、日中は子供たちの声が聞こえてきます。コロナ禍前は園児たちとの交流がありました。「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、共に支え合い共感する、ありがとうと言い合える日々の暮らし」を理念に掲げ、利用者一人ひとりの時間を大切にされた個別ケアを実践しています。統一した個別ケアの実践のために、利用者一人ひとりの事が1枚でわかる「利用者個別注意事項」を作成し確認しています。介護計画も「主体は利用者」の考えで作成しています。調理担当職員を配置し、新鮮な食材で作る手作り料理も利用者に喜ばれています。利用者が笑顔になるようにと管理者以下職員が支える暮らしは、理念の通り「ありがとう」の言葉が毎日飛び交うグループホームです。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

己	自部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的で、住み慣れた環境の中で個々の生活習慣を第一に考え、安心した生活が送れるように努めています。理念は各階の入口に掲げており、いつでも目につくようにしています。	「家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、共に支え合い共感する、ありがとと言い合える日々の暮らし」を理念に掲げ、利用者一人ひとりの時間を大切にされた個別ケアを実践しています。理念は各階の入口に掲げ、日常的に確認できるようにしています。	今後、ホームで発行している広報誌に理念を掲載する等、地域・家族からもホームの理念をさらに理解して支持してもらえる工夫を検討されたいかがでしょうか。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防のため、利用者が出かけることが難しい事もありますが、出来る限り公園までの散歩に出掛けました。公園では、地域の方と挨拶を交わしています。コロナの為、中止しているが、サロンにも参加しておりました。	コロナ禍のため、地域との交流は中止の状態です。これまで同じ建物の保育園園児との交流を楽しんでいました。現在は、コロナの状況に応じて、公園の散歩に出かけ、そこで出会う地域の方々と挨拶を交わしています。管理者は、コロナが収束したら、グループホームを理解してもらうためにも地域住民と一緒にイベントを実施したいと願っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の方への理解を深めて頂く為、地域の中学校の職場体験・ボランティアの受け入れを行っていましたが、コロナ感染予防の為、中止している状態。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催の中で、活動・取り組み状況等報告し、意見や助言を頂き質の高いサービスに繋げている。今は、コロナの為中止している状態。	利用者代表、地区社会福祉協議会会長、介護相談員、市社会福祉協議会職員、地域包括支援センター職員等の参加で2ヶ月毎に実施し、参加者から評価や助言を得て、ホームの運営に活かしてきました。コロナ禍で現在は議事録作成のみの状況です。	運営推進会議が中止の状況ですが、書面によりホームの状況報告をすることで、更なる理解に繋がることが期待できます。報告に対する意見や要望を聞くために返信用封筒を同封するなどの工夫はいかがでしょうか。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールでの情報交換、また、市の窓口に出向き手続きや相談、指導を受ける等、連携を築けるよう努めている。	市に相談する時は、市の担当部署に出向いて直接聞いています。市の介護相談員も受け入れていますが、現在はコロナ禍のため、活動は中止となっています。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関するマニュアルを作成し、年間研修計画に取り入れ、身体拘束をしないケアを職員間で認識している。	身体拘束の事例はありません。身体拘束廃止に向けた委員会や研修も実施しています。管理者は、職員への声かけに努め、職員のストレスへの配慮を心がけています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や防止マニュアルを熟知し、相手の立場に立った視点での虐待の理解を深め、日々の対話・対応の中で自己判断のみとならないように努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見人制度について学び今後は活用できるよう支援していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に重要事項説明書、契約書を読み上げ、十分に説明し、納得したうえで契約を交わしている。解約時には納得して頂けるよう、医療、福祉機関、連携を退居の為に必要な支援を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の中で、入居者個々が不満や思い等、引き出せるようゆっくり関わる時間を作っている。コロナの為、面会制限している中で、電話や、必要な物を持ってきて頂くときに、意見や要望を聴かせて頂き運営に反映している。	家族の面会はコロナ禍のため、併設の介護付き有料老人ホームの入り口でガラス越しでの面会となっています。タブレット型端末(iPad)を使ってビデオ通信する家族もあります。自由に面会できない家族の思いに応えるため、季節ごとの「広報誌」に加え、写真や担当者からの便りで利用者の日常を伝えています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス等に、職員からの意見・要望等を聴く機会を設け働きやすい環境づくりに努め、利用者のケアの質の向上に繋げている。	毎月カンファレンスを行い、業務の改善や利用者一人ひとりについて話し合っています。また、記録を見ながら意見交換を行っています。気がついたことがあれば、管理者に都度相談・報告するようになっています。	

己	自	部	外	項目	自己評価	外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12				○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員ひとり一人の状況の把握に努め、個々の努力や実力、勤務状況を把握し評価している。働きながら初任者研修や、実務者研修を受けてスキルアップを目指しているスタッフもいる。		
13				○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を立て社内研修を実施し、又外部研修に参加し研修発表を行い、全職員が共有しスキルアップに繋げている。		
14				○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの為、事業者連絡会地域のネットワークへの参加ができていない状況である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援							
15				○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人が話しやすい環境、ゆったりとした時間を作り傾聴し、職員との信頼関係を築き上げ、本人の安心を確保できるよう努めている。また、担当職員を決めコミュニケーションを図っている。		
16				○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報収集すると共に、本人の状況も理解し、意見・要望等聞かせて頂き、より良い環境づくりに努めている。		
17				○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報収取を基に状況を理解し必要性を見極め本人にとってより良い環境で生活が出来るように努めている。		
18				○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は本人の出来ないところをお手伝いさせて頂き、家族の一員として日々共に支え合いながら生活をしている。理念である「ありがとう」と言い合える暮らしを職員全員が実行している。		

己	自	部	外	項 目	自己評価	外部評価		
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
19				○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の生活環境を必要時に家族に報告し、意見や要望を伺い協力を頂きながら、共に本人を支えていくよう、より良い環境づくりを築いている。毎月のメルシー通信を発行しており、担当職員からの利用者の様子がわかるようにコメントとしている。			
20	(8)			○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今まで、大切にしてきた生活歴を把握し、背景等を十分に理解しながら、大切な人との交流と馴染みの場所へ出掛ける等の支援をしているが、コロナ過の為に出来ていない。	職員は、これまでの馴染みの関係を少しでも継続することが利用者にとって大切なことと理解し、支援に努めています。コロナ禍で馴染みの人たちとの面会ができない状況ですが、手紙を出すときは職員がサポートしています。		
21				○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の信頼と、より良い関係が保てるよう職員が架け橋となり、個人の個性を把握し、必要時対応し共同生活が楽しいと思って頂けるよう支援している。リビングでは、必要に応じて席替えを実施している。			
22				○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、家族様から手紙や電話にて現状報告や相談等あり、支援に努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント								
23	(9)			○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聴き、意向に添えるよう、又意思疎通の困難な方も行動や表情を見逃すことなく思いを把握し、ゆっくり関わる時間を作り支援をしている。	職員は利用者との何気ない会話や動作から本人の意向や要望を把握し、気づいた事や新しい発見は、記録に残し、職員間で共有しています。職員はひとり2～3人の利用者を担当し、より細かく利用者理解ができる体制をとっています。		
24				○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族、本人から生活環境、生活歴や習慣等現状に至る経過の情報を収集し、これまでの生活環境に近づけるよう努めている。			

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25				○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の変化を見逃さないよう観察するとともに、現状を把握し、個々に有する残存機能を発揮できるよう努めている。			
26	(10)			○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々、利用者の気付きを記録し、都度カンファレンスで話し合い、現状に即し対応している。また、3カ月のケアプラン見直しでは、家族様に意見や要望を伺い、目標に対しての評価を行い介護計画を作成している。	利用者・家族の思いや希望を尊重した介護計画になっています。評価シート(モニタリング記録表)に、短期目標に沿った具体的計画内容を記載し、介護計画の実践に繋げています。また、利用者一人ひとりの事が1枚でわかる「利用者個別注意事項」を作成し統一した支援ができるように工夫しています。介護計画を作成する際は「利用者はどうしてもらいたいのか」「主体は利用者」の視点を心がけています。		
27				○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌・個別チェック表・経過表で情報を共有し、ケアプランの評価を日々行い変化が生じた場合、気づきノートに記載し、随時カンファレンスを行いケアプランの見直しに活かしている。			
28				○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族より要望や意見を伺い状況、状態で都度話し合い、必要とするサービス情報を提供し、柔軟に対応するよう取り組んでいる。(訪問マッサージや、訪問歯科、等)			
29				○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の活動(ふれあいサロン、敬老会)への参加や保育園児との交流、図書館の利用等、また、本人が得意とする等、心身の力を発揮しながら豊かな暮らしが出来るよう支援している。しかし、コロナ過の為、現在は中止してる。			
30	(11)			○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に主治医の意向を確認し、本人、家族がかかりつけ医の受診を希望される場合は継続して頂いている。 ホームの提携医との24時間連携、月2回の往診により利用者の健康管理を行っている。また、他に専門医への受診支援も行っている。	入居時に意向を確認しています。隣接する提携クリニックによる24時間365日の医師対応や毎月2回の健康管理など手厚い支援に努めています。循環器系など外部の受診を希望する利用者もおり、一人ひとりが適切な医療を受けられるように支援しています。		

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31				○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日中は看護師が従事しており、また提携医である看護師との24時間オンコール対応を行い状況変化や気付き等、連絡相談を行い24時間連携している。			
32				○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は、安心して治療できるように情報を提供している。退院時の利用者に関係する情報交換や相談に医療機関と密に連携を図っており、必要に応じて面会に行くこともある。			
33	(12)			○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時や、入居当初に終末期の在り方等を説明し本人、家族の要望を確認している。主治医、家族、職員間で話し合い「出来ること、出来ない事」を見極め方針を共有し支援し取り組んでいる。	重度化や終末期に関しては入居時に終末期のあり方等を説明しています。また、重度化や状態が変化したらその都度、家族に状態を伝え意向に添えるようにしています。これまでホームでの看取りがありました。今後、利用者・家族に安心してもらえる看取りケアの体制を整えていく考えです。	今まで看取りの支援を経験した職員の意見や感想など、話し合いを重ねて、看取りマニュアルの見直しをされてはいかがでしょうか。	
34				○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、急変や事故発生時のマニュアルをスタッフルームに掲示し、また、諸注意及びチェック表に基づきすべての職員が対応できるよう緊急対応に備えている。			
35	(13)			○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難・消防訓練を消防署員の協力を得て夜間想定も含めて利用者参加のもと実施している。	毎年2回保育園と合同の訓練を行なっています。各フロアごとに担当を決めて、咄嗟の判断ができるような体制をとっています。防災備蓄品として水やお米等を備えています。職員が食料などの日常の買い出しに出かけるので賞味期限を確認し、交換時期にも注意を払うことができます。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の入社時には、秘密保持に関する契約書を交わし周知徹底している。利用者を尊重し、尊厳を守り、家族のように親しみのある会話で信頼関係を築いている。また、利用者ひとり一人のプライドや生活背景に配慮した支援に努めている。	入社時には、プライバシー保護と秘密保持について説明して契約書を交わし確認しています。利用者の尊厳を守り、不穏になるような声掛けを避け、親しみのある言葉での会話で信頼関係を築くようにしています。トイレ誘導時には、利用者の羞恥心に配慮した声かけを行う等、ケアを行う際もプライバシーに気をつけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の想いや希望が言えるような環境に配慮し、個々に合った対応と意思表示できない利用者に対し、日々の言動や表情を観察しながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	個々の生活習慣及び生活リズムを把握し、ペースを大切に希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの希望に合わせて理美容の利用を支援し、身だしなみや洋服を自身で選べるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえ、味噌汁作り、盛り付け、配茶等、それぞれの方の得意とされる事を役割とし、また、利用者の好きな食べ物を聴きメニューに取り入れる等、楽しみと自信に繋がるよう支援している。月1回の行事食や、出前も楽しみとしている。	食事は3食ともホームで手作りしています。食材はスタッフがスーパーなどに出掛け、利用者に喜ばれそうな新鮮な素材を選んで購入しています。利用者もできる事を手伝い、楽しんでいきます。食べたいものなど利用者の声を聞き取り、日々の食卓作りに役立てています。月1回の手作りおやつも好評です。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分の必要量を摂取するよう声掛けや、好みの飲み物を提供する等、また、水分調整や体重制限が必要な方等ストレスとならないよう盛り付けや塩分調整する等工夫し、摂取量を把握し、記録にて健康保持に努めている。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。月に1回歯科往診にて定期検診を行い歯科医の所見にて個々に指示を頂き本人に応じた口腔ケアをしている。何かあれば、その都度歯科受診している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄間隔を個々に把握し、プライバシーに配慮しつつトイレ誘導を行い支援している。紙パンツ使用の方も日中は布パンツを使用して頂き快適に過ごして頂けるよう努めている。	排泄チェック表を活用し、その人に合った個別の対応に努めています。日中は布パンツ、夜間は紙パンツを利用するなど、状況に応じて対応できるように心がけています。トイレ誘導時も恥ずかしくない言葉掛けなどの対応を身に付けています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便確認と水分摂取の把握及び適度な運動を個々に働きかけ取り組んでいる。また、必要に応じて下剤を使用し排便コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個々の希望や習慣に出来るだけ近づけるよう努めている。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤で気分転換を図り、入浴を楽しめるよう支援している。	季節の行事湯(ゆず湯、菖蒲)や、温泉を感じられる入浴剤を利用し、日々楽しんで入浴できるような雰囲気大切にしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの希望に合わせて理美容の利用を支援したり、身だしなみや洋服を自身で選べるよう支援している。また、散歩や、体操、歌を歌ったりして安眠ができるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤説明書内容(相互作用・注意事項・副作用)を確認理解し、症状の変化を観察するよう努めている。特に、排便状態には気を付けて、緩下剤のコントロールを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとり得意とされる事を見出し個々に役割とし自信と楽しみとなるよう、また、趣味や楽しみとしてきたことを継続してできるよう支援している。		

己	自部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、買い物、地域での活動に参加する等、積極的に行き、また、個々の希望を伺いゆつくりと出掛けられるよう外出を計画したり、交通機関を利用し、買い物や行きつけのお店で外食等々今まで楽しみとしていたことを継続できることの支援を行いたいが、コロナの為に現在は実施出来ていない。	コロナ禍でもできる支援を工夫し、近所の散歩に出かけています。屋外で季節の花を楽しみ、近所の方と顔を合わせ会釈を交わしたりすることは良い気分転換となり、なごやかで自然な笑顔を引き出せています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者で自己管理できる方には少額を所持して頂き、また小口(3千円程度)をホームで預かり管理し、買い物時は、本人に財布を手渡し支払いをしてもらっている。毎月出納長をコピーし、レシートを添付し家族に郵送している。コロナの為、買い物は行けていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望をされる際、都度対応し、家族や友人へ手紙のやり取りが出来るよう又、手作りの便せんやはがきを作成し、通信を楽しめる支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の環境や日ざし、音、湿・温等、快適な生活空間であるよう心がけ又、季節を感じて頂く為の装飾をしている。リビングには料理や、着物、お花、犬などの本が置いてあり、いつでも手に取れるようにしている。	季節感を大切に居間は、音楽を聴いたり、テレビを観たり、また本や新聞を読んだり体操をしたりと、思い思いの時間を安心して過ごせるくつろぎの空間となっています。(コロナ禍のため、入口付近のみ見学)	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に落ち着ける場として、廊下に椅子を設置したり、テレビの前にも椅子とテーブルを置いて、個々が自由にくつろげる居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や置物、思い出のアルバム、仏壇等、今迄の生活環境に近づけ居心地良く過ごせるよう工夫している。	入居時には家族と相談しながら、椅子や毛布など使い慣れた品や思い出の写真などを持ち込み、今までの生活を大切に居間になるよう支援しています。好きなアレンジメントフラワーを飾っている利用者もいます。(コロナ禍のため、聴き取りのみ)	

己	自	部	外	項 目	自己評価		外部評価	
					実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
55				○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入口に表札を掲げ、廊下、トイレ、ふろ場には手すりをつけ、危険な場所には、表示するなど、又タンスの引き出し等に衣類、小物の表示をし、混乱や障害がないように配慮し、安全かつ自立した生活が送れるよう工夫している。			